

次期計画検討における重点テーマについて

資料 1

現計画(改定版)における主な取組

- ごみ減量キャンペーン
 - ・ 生ごみの水切り、食品ロス削減等
 - ・ 紙類、容器包装プラスチックの排出方法に関する普及啓発等
- さっぽろクリーンミーティング（ごみ排出ルールの周知等）
- 小型家電、古着の無料回収
- 集団資源回収奨励金に加算制度を導入 等

ごみ量管理目標の達成状況

項目		基準 (H24)	H25	H26	H27	最終目標 (H29)
廃棄ごみ量 (全体)	万トン	49.0	50.1	48.2	47.9	46.0
家庭から出る 廃棄ごみ量	g/人・日	413	419	405	395	380
家庭から出る 生ごみ量	万トン	11.4	11.1	11.1	9.9	10.4
リサイクル率	%	26.7	27.1	28.0	28.3	30.0
焼却ごみ量	万トン	43.8	44.4	43.4	43.6	41.0
埋立処分量	万トン	9.8	10.4	9.4	8.3	7.8

※家庭から出る生ごみ量は最終目標値達成

将来のごみ動向

- 平成 39 年度においては、現状に比べて人口はそれほど減少しないことから、ごみ量も大きくは変化しないと予想ただし、
 - ◆ 高齢化に伴う生ごみ、紙おむつの増加
 - ◆ 生前整理、遺品整理による大型ごみ、食器類などの増加
 - ◆ 1人世帯、2人世帯の増によるごみ量の増加（ごみ排出量原単位の増）
 - ◆ 容器包装プラスチックの増加

等が想定

これまでの審議会での主な意見

- 衣類のリユースは、市民のリサイクル・リユースに目を向けるきっかけとなる。【2 R】
- スーパー、コンビニ等の過剰包装が気になる。資源物の発生抑制も必要ではないか。【2 R, 事業者との連携】
- 発生抑制は温暖化対策にも資する。（レジ袋の CO2 排出量への影響等）【2 R】
- 食品ロスについて、高齢者の傾向だけではなく、単身者の傾向も合わせた検討が必要ではないか。【年代別の取組, 生ごみ・食品ロス】
- 高齢化が進むとこれ以上分別を増やすことは厳しい。個別 PR で適正排出を強化することが望ましいのではないか。【年代別の取組, 普及啓発】
- 転入者や若い人への効果的な啓発が必要ではないか。【年代別の取組, 普及啓発】
- ごみ分別アプリは分かりやすいが、認知度が低い。【年代別の取組, 普及啓発】
- 事業者を巻き込んだ取組が必要ではないか。【事業者との連携】
- 事業ごみについての検討も必要ではないか。【事業者との連携】
- 家庭ごみ・事業ごみともに食品廃棄物は今後のポイントとなる。【生ごみ・食品ロス, 事業者との連携】

次期計画検討における重点テーマ案

2 R
発生排出抑制・リユース

生ごみ
食品ロス

年代別の取組
高齢者・若年層など

事業者との連携

普及啓発

テーマの関連イメージ

2 R
発生排出抑制・リユース

生ごみ・食品ロス

事業者との連携

年代別の取組
高齢者・若年層など

普及啓発※

※普及啓発はすべてのテーマに関連